

## 令和5年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「チャンス・チャレンジ・チェンジ」をキーワードとして、生徒全員が就労を通じた社会的自立をし、生き生きと暮らしていける人材を育成する学校をめざす。  
 ☆「チャンス」＝人との出会いを大事にするとともに、本校の教育活動や生徒の良さを広く発信する。  
 ☆「チャレンジ」＝自己達成感を高められるように生徒の個別の実態に応じた支援を行いつつ、未経験の課題に対して挑戦する力をつけるよう支援する。  
 ☆「チェンジ」＝互いの違い・よさを認め合う仲間づくりにより自己肯定感を高め、めざすべき自分・目標を見つけて社会へ巣立つことができるよう支援する。

## 2 中期的目標

## 1 生徒本人を中心に据えた支援・教育活動の充実と、安全安心で活力あふれる学校づくり

- (1) チームによる生徒の実態把握と効果的な支援の実施により、生徒の成長につなげる。  
 ※生徒向け学校教育自己診断「自分の個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標を知っている」R7：93%（R2：84%、R3：78%、R4：73%）
- (2) 全教職員が連携して生徒の安全・安心を常にしっかり守れる体制を構築する。
- (3) 生徒が主体となって企画・運営する取組みを充実する。
- (4) 偏見や差別を許さない、人権が尊重された教育を推進する。

## 2 就労を通じた社会的自立をめざす「生きる力」の育成

- (1) 1人1台端末を効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業づくりをする。  
 ※教職員向け「主体的・対話的で深い学びの実現をめざして授業を行っている」R7：100%（R2：96%、R3：100%、R4：90%）
- (2) 「MURANO キャリアプラン」に基づき、今後の10年に向けたカリキュラムの検討・改善をすすめる。
- (3) 生徒が社会の変化に対応できる力を育み、挑戦する意欲や自己肯定感、達成感を向上させる。  
 学校経営推進費（R3「むらの『Smile & Music』プロジェクト」～地域に貢献し、地域に指示されるMURANO キャリア教育プランの具現化に向けて～）を活用して、音楽活動を通じた自己表現力や、自己肯定感の向上をめざす。  
 ・シロフォン（木琴）（30.6万円）、ピラフォン（鉄琴）（23.6万円）、高床式砂栽培設備（143万円）、電気陶芸窯（31万円）等、計334.8万円  
 ※生徒向けアンケート：R7「自己肯定感」、「達成感」が、それぞれ90%以上を維持（R4：自己肯定感90%、達成感96%）
- (4) 全教職員が連携して、進路学習・進路指導に取組み、生徒一人ひとりにあった進路実現をする。
- (5) 実習先・雇用先を確保してマッチング機会を充実するとともに、関係機関との連携を密にし、卒業1年後の職場定着率95%以上を維持する。  
 （R2：92%、R3：94%、R4：100%）

## 3 魅力ある取組みの充実と情報発信による高等支援学校への理解促進

- (1) 地域等との交流・連携を深め、生徒が活躍できる機会を創出する。
- (2) 中学校・支援学校中等部での適切な進路指導を促進するために、本校の教育活動に関して積極的に情報提供をする。
- (3) 積極的な広報を行い、本校の取組みと魅力を鮮明に伝える。

## 4 支援教育における専門性の向上と学校の組織力向上

- (1) 初任者や経験年数の少ない教職員の育成を進めるとともに、支援教育の専門性を高める。  
 ※「授業担当教諭の特別支援学校教諭免許保有率」R7：80%（R2：55%、R3：61%、R4：65%）  
 ※教職員向け「初任者を含む教職経験1～2年めの者及び本校1年めの教職員に対する育成・支援が行われている」R7：75%（R2：47%、R3：63%、R4：73%）
- (2) 校務の効率化と働き方改革に取り組み、教職員の心身の健康の維持を推進する。
- (3) 開校20年（R16）に向かって、本校のめざす学校像や方向性、組織の在り方を検討する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

## 3 本年度の取組内容及び自己評価&lt;※学校教育自己診断は、【生】:生徒向け、【保】:保護者向け、【教】:教職員向け&gt;

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 生徒本人を中心に据えた支援・教育活動の充実と安全安心で活力あふれる学校づくり	<p>(1) 生徒の実態把握と効果的な支援の実施</p> <p>(2) 生徒の安全・安心を守る体制の構築</p> <p>(3) 生徒が主体となった取組みの充実</p> <p>(4) 人権を尊重した教育の推進</p>	<p>(1) ・職員朝礼、全体研修、事例検討会などを通じて、学年団および授業担当者が生徒の実態を共有し、目標設定や指導に活かす。</p> <p>・各担当者が、個別の教育支援計画・指導計画を意識し、支援方法を検討するとともに、生徒への周知方法を工夫して目標を明確に示す。</p> <p>(2) ・併設校と連携し、合同で防犯訓練を実施する。</p> <p>(3) ・生徒会企画の取組みにおいて、従来よりも生徒の主体性を尊重した運営とする。</p> <p>(4) ・重大ないじめ事案を発生させないよう、初期段階での対応を確実に実施する。</p>	<p>(1) ・【教】 「生徒の特性や実態をふまえ、教員間で授業の内容や方法等について情報交換や検討する機会を持っている」 肯定率：92% [88%]</p> <p>・【生】 「先生は、自分のことをよく理解してくれている」 肯定率：92% [88%]</p> <p>・【保】 「学校は、子どもの障がいについて、よく理解している」 肯定率：96%以上を維持 [96%]</p> <p>・【生】 「自分の個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標を知っている」 肯定率：80% [73%]</p> <p>(2) ・合同防犯訓練を企画し、実施する。</p> <p>(3) ・【生】 「本校には達成感を味わうことができる活動がある」 肯定率：93% [91%]</p> <p>・【生】 「本校の行事は楽しい」 肯定率：90% [88%]</p> <p>(4) ・重大ないじめ事案が発生しない。</p> <p>・教職員人権研修を年2回実施する。</p> <p>・【教】 「生徒の人権を尊重して日常の教育活動を行っている」 肯定率：95% [93%]</p>	
2 就労を通じた社会的自立をめざす生きる力の育成	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業づくり</p> <p>(2) 将来に向けたカリキュラムの検討</p> <p>(3) 生徒の自己肯定感・達成感の向上</p> <p>(4) 生徒の企業就労支援</p> <p>(5) 就労率・定着率の向上</p>	<p>(1) ・コンテンツの共有化や研究授業・事例研究などによる情報共有を進め、ICT機器をさらに活用した、わかりやすい授業づくりを行う。</p> <p>(2) ・10年後を見すえたカリキュラムの検討をする。</p> <p>(3) ・学校経営推進費事業（R3「むらの『Smile &amp; Music』プロジェクト」）を計画通り実施する。</p> <p>(4) ・生徒一人ひとりに応じたきめ細かい進路指導を行う。</p> <p>(5) ・マッチング機会を増やすため、実習・雇用先の開拓・確保に積極的に取り組む。</p> <p>・卒業生進路先へのアフター訪問を継続的に実施して定着支援を行う。</p>	<p>(1) ・【教】 「主体的・対話的で深い学びの実現をめざして授業を行っている」 肯定率：95% [90%]</p> <p>・【生】 「先生は授業や行事でタブレットを使って、わかりやすい学習をしてくれている」 肯定率：95% [92%]</p> <p>(2) ・年度末までに案を取りまとめる。</p> <p>(3) ・生徒アンケート 「達成感」：96%以上を維持 [96%] 「自己肯定感」：92% [90%]</p> <p>(4) ・【生】 「先生は、将来の進路や職業について自分にあったアドバイスをくれる」 肯定率：97%以上を維持 [97%]</p> <p>・【保】 「学校は、将来の進路や職業について適切な指導を行っている」 肯定率：98%以上を維持 [98%]</p> <p>(5) ・「新規実習受入企業」と、「2年以上実習受入れがなかったが、受入れを再開した企業」の合計数 30社以上 [25社]</p> <p>・卒業1年後の職場定着率：95%以上を維持 [100%]</p>	

## 府立むらの高等支援学校

<p>3 魅力ある取組みと情報発信による高等支援学校への理解促進</p>	<p>(1) 地域等との交流・連携強化と、生徒が活躍できる機会の創出</p> <p>(2) 中学校への積極的な情報提供</p> <p>(3) 本校の取組みや魅力を伝える積極的な広報</p>	<p>(1) ・コロナ禍により中断していた、地域と連携したさまざまな取組みを再開する。</p> <p>(2) ・地域の中学校や支援学校中等部へ進路指導に有効な情報を発信する。</p> <p>(3) ・ホームページやブログを効果的に活用し、タイムリーに情報発信をする。</p> <p>・企業や事業所の個別学校見学を積極的に受け入れる。</p> <p>・開校 10 周年行事を企画する。</p>	<p>(1) ・感染対策を講じながら、天の川カフェの一般向け営業を再開する。</p> <p>・各取組みの内容を整理して見直したうえで、できるものから実施する。</p> <p>(2) ・地域の中学校に公開授業週間を案内し、当該来校者が 40 名以上 [38 名]</p> <p>・中学校の支援担当者や進路指導担当者を対象とした説明会を企画する。</p> <p>(3) ・年間情報発信計画に基づき、滞りなく情報を発信する。</p> <p>・個別見学会の実施回数 30 回以上 [25 回]</p> <p>・併設校と合同の実行委員会を立ち上げるとともに、校内 WG を立ち上げ、企画が完了する。</p>	
<p>4 支援教育における専門性の向上と学校の組織力向上</p>	<p>(1) 支援教育の専門性向上</p> <p>(2) 校務の効率化と働き方改革</p> <p>(3) 開校 20 年に向かって、今後の方向性の検討</p>	<p>(1) ・特別支援学校教諭免許保有率が向上するよう、研修情報などを積極的に提供し、支援する。</p> <p>(2) ・行事や業務の見直し、一斉退庁日の推進、校務のデジタル化など、校務運営の効率化に向けた取組みを実施する。</p> <p>(3) ・本校の 10 年後を見すえて、めざす学校像や組織のあり方などを検討する。</p>	<p>(1) ・【教】 「初任者を含む教職経験 1～2 年めの者及び本校 1 年めの教職員に対する育成・支援が行われている」 肯定率：75% [73%]</p> <p>・特別支援学校教諭免許保有率 保有率：70% [65%]</p> <p>(2) ・1 人あたりの時間外在校時間が前年度より 10%以上減少する。 [月平均 24.6 時間]</p> <p>・時間外在校時間が月間 80 時間以上： のべ 0 人 [のべ 10 人]</p> <p>(3) ・WG を立ち上げ、年度末までに 10 年ビジョンを取りまとめる。</p>	